

# #子育て処方せん

## 中耳炎薬や鼓膜切開

今回の「#子育て処方せん」のテーマは子どもに多い耳の病気。福岡市立子ども病院耳鼻いんこう科長の村上和子医師に治療法などを聞いた。

### 耳の病気

子どもの耳のつくりは大人とほぼ変わらないが、中耳と鼻をつなぐ耳管の傾斜が大人より緩やかで、長さも短い。このため、風邪をひくと細菌やウイルスが鼻から中耳に入ってきてやすい。子どもが「耳が痛い」と訴える場合、まず考えられるのは、細菌やウイルスが中耳に入って炎症が起きる急性中耳炎だ。

治療法としては、細菌性の炎症にしか効かないが、抗生薬を服用するのが一般的だ。鼓膜を切開してうみを取り除き、痛みを軽減させることもある。滲出性中耳炎も風邪の時に起きやすい。副鼻腔



村上和子医師

炎などで鼻の奥が腫れて耳管が狭くなり、中耳の粘膜からしみ出た液体がたまる。急性中耳炎のような痛みはなく、聞こえにくかったり、聞き返しが多かったり

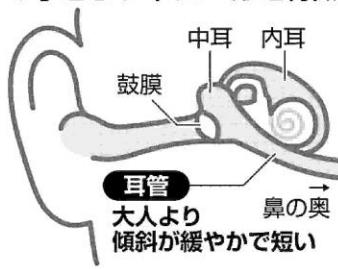
りする時にかかっていることがある。中耳の液体を出しやすくする薬(カルボシステイン)などを服用して治療する。3か月以上続く場合、鼓膜にチューブを入れてたまった液体を出しやすくする外科的治療を行うこともある。耳の病気で見逃さないようにしているのが、真珠腫性中耳炎だ。耳あかは、通常は自然と耳の外に排出される。しかし、まれに耳の

### 耳あか排出されず聴力影響も

奥など排出されにくい場所に耳あかがたまってしまいうケースがある。そこで耳あかが大きくなると、聴力や平衡感覚に悪影響を及ぼす恐れがある。早期に発見し、治療にあたる必要がある。子どもの耳あか掃除は毎日する必要はない。気になった時に2、3か月に1回程度、綿棒で耳の入り口付近にたまっていてる分をかき出すだけでよい。嫌がる子どもを押さえつけて掃除しようとするとうつて掃除しよつて危険だ。無理をせず、耳鼻科で取ってもらうのがよい。

(聞き手 大森祐輔)

### 子どもの耳のつくりと特徴



中耳 内耳  
鼓膜  
耳管  
鼻の奥  
大人より傾斜が緩やかで短い

子どもが体調不良の時、働く親らの支えになるのが病児保育だ。市町村が委託・運営する施設を補完する形で、自宅で看病したり、保育園への迎えを代行したりする会員制サービスも始まっている。福岡市で障害児の保育施設を運営する「がじゅまるの木」は昨秋、訪問型の病児保育事業「キッズリーフ」を開始。保育士や看護師が会員の自宅で子どもの世話をする。家族形態や子どもの年齢に応じ、月会費(4000~1万2800円)や利用料金などが変わる。会員は約50人。利用者からは「病児保育施設が予約できず、その度に仕事を休んでいたのが助かる」「子どもを慣れた環境でみてもらえるので安心だ」などの声が寄せられているという。中野史也代表(26)は「育児と仕事のはざまで心苦しさを感じている保護者をサポートしたい」と話す。

### 病児保育 様々な会員制サービス



看護師(左)から応急処置の方法を学ぶ「キッズリーフ」の保育士。緊急時に備え、定期的に研修を受けている(福岡市)

大分市で病児保育施設を運営する「さくらいろ保育園」は、登園中に発熱などがあった場合に看護師らが迎えを代行する事業を行っている。病児保育などの利用も合わせて、月会費3000円のプランなどがある。太田直希園長(45)は元大分県職員。共働きで、子どもが発熱した際、すぐに仕事を切り上げて保育園に迎えにいかなければならず苦勞した。太田園長は「安心して子育てができる環境づくりに一役買いたい」と語った。

「#子育て処方せん」へのご意見をお寄せください。社会部のメール(s-syakal@yomiuri.com)へお願いします。



インタビューの動画はQRコードを読み込んでください